

- 有明海及び八代海の海域の環境の保全及び改善並びに当該海域における水産資源の回復等による漁業の振興を図るため、次の調査研究を実施するものとする。
- (1) 干潟と海域の環境との関係に関する調査研究
干潟等に生息する生物が有する水質浄化能力、浮泥のたい積と底質の変化等干潟と海域の環境との関係に関する調査研究を進める。
 - (2) 潮流、潮汐等と海域の環境との関係に関する調査研究
潮流、潮汐等の実態を把握し、その海域全体の環境に与える影響に関する調査研究を進める。
 - (3) 流入する水の汚濁負荷量と海域の環境との関係に関する調査研究
海域に流入する汚濁負荷量を把握し、汚濁負荷量の変化が海域に与える影響及び汚濁負荷の効果的な削減手法に関する調査研究を進める。
 - (4) 流入する河川の流況と海域の環境との関係に関する調査研究
流入する河川の流況を把握し、その変化と海域の環境との関係に関する調査研究を進める。
 - (5) 土砂の採取と海域の環境との関係に関する調査研究
海砂利等の採取による地形改変の実態を把握し、これが海域の環境に与える影響に関する調査を進める。
 - (6) 赤潮、貧酸素水塊等の発生機構に関する調査研究
赤潮の原因となる有害プランクトン等の特性に関する調査研究を進める。また、赤潮及び貧酸素水塊等の発生機構の解明に関する調査研究を進める。
 - (7) 赤潮の防除及び予察技術の開発
赤潮による被害を防止するために、予察及び防除技術の開発に必要な基礎的知見を収集する。
 - (8) 環境と水産資源との関係に関する調査
有明海及び八代海の環境変化がノリ養殖や二枚貝等の生物生産に及ぼす影響を調査する。特に、アサリ、タイラギ等の資源回復対策を検討するため、稚貝等の減耗要因の究明調査及び移植等による増殖技術開発を行う。
 - (9) その他海域の環境に関する調査研究
 - ・ 藻場造成技術に関する調査研究
減少が著しい藻場を保全するため、藻場の着生機能の高い新たな基質を利用した藻場造成手法を開発し、より効果的な造成技術の確立を図る。
 - (10) その他水産資源に関する調査研究
 - ・ 水産資源の永続的な利用に関する調査研究
適正な資源利用を図るため、沿岸域の重要資源について資源状況を把握する。また、資源管理型漁業の一層の推進を図るため管理効果の把握に努める。
 - ・ 海域での養殖漁業に関する調査研究
ノリ養殖の持続的な生産を図るため、高水温や低栄養といった海況等の変化に対応した品種の開発研究を行う。
また、養殖におけるウイルス病などによる被害を軽減するため、魚病対策技術の研究開発を促進するとともに、養殖技術の改善等の研究を継続していく。
さらに、飼料の改善と海藻との複合養殖による環境負荷の少ない魚類養殖技術の調査研究を進める。
- 調査研究体制の整備等
- (1) 調査研究体制の整備
有明海及び八代海の再生に係る総合的な調査研究を円滑に実施していくために、調査研究体制の充実強化を図るとともに、国、関係県はもとより大学等研究機関、市町村等との連携・協力を強化する。
また、研究成果等の情報交換を円滑に実施するため、国、関係県等のネットワーク及びデータベースの構築に積極的に参加する。
 - (2) 研究開発の推進と成果の普及
調査研究の成果等のデータベースを活用し、情報の共有化、情報収集の効率化を図り、共同研究を積極的に行うことにより、研究開発の高度化・効率化を推進する。
また、ホームページや研修会により研究成果の迅速な普及を図る。
 - (3) 研究者の養成等
研究者の調査研究能力の向上を図ることを目的とした研修やシンポジウム等の活用により、人材育成に努めるものとする。